

実施日：2月16日（2校時）	
領 域：教科（保健体育科）	
取組名：性について悩みをもつ人がいることを知る	
対 象：4年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づくこと、また、異性への感心が芽生えることを理解させる。</li> <li>・ 性自認や性的指向について知り、性について悩みをもつ人がいることを理解させる。</li> </ul>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習「女性と男性には、どんな違いがあったか」をふり返る。</li> <li>・ 教科書を読み、疑問に思ったことを話し合い、課題をつかむ。</li> <li>・ 課題：『性についてのなやみ』には、どのようなことがあるのだろうか』について考える。</li> <li>・ ゲストティーチャーの話を聞く。</li> <li>・ 悩みについて考え、話し合う。</li> <li>・ 短冊に自分の考えを書き、黒板に貼り、伝え合う活動につなげる。</li> <li>・ 本時の学習をまとめる。</li> </ul>	
ウ 連携先： 家庭、地域、一宮北中学校、Like myself	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や地域へは、授業の内容や児童の発言を学級通信等で知らせた。</li> <li>・ 一宮北中学校の職員に授業を公開し、小学校での指導内容を紹介することができた。</li> <li>・ 4年保健体育の教科書の「さらに広げよう深めよう」の発展で紹介されている性の多様性について、Like myselfの方と授業の内容について検討した。授業当日、ゲストティーチャーとして性の多様性について話をしていただき、児童の理解を深めた。</li> </ul>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習で学んだ内容や子どもたちの意見などをまとめ、誰でも見ることができるよう廊下に掲示している。</li> <li>・ 各教科・各領域を通して、伝え合う活動を取り入れた授業実践を行うことを小中全職員で意思統一している。ペア学習やグループ活動を活用し、相手の考えや意見を受け止めてから自分の考えを伝えるように指導している。相手意識をもたせた上で、伝えたいことをまとめさせ、コミュニケーション能力を育てている。</li> </ul>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言</li> <li>・ ワークシート、感想</li> </ul>	
<p>キ 成果</p> <p>児童はこころの性とからだの性が違う人がいて、悩みをもっていることを理解できた。また、その悩みについて考えたり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして、「性について正しく知らないことが差別につながること」、そして、「偏見をなくし、不安を抱えて生きにくいと思っている人がいなくなるようにしたい」という考えが出た。性の多様性について正しく知るための学びを通して、他の人権課題の解消にもつながる意見が出たことは大きな収穫である。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>3年間、性の多様性の学習を積み上げた学年だったので、指導者の想定以上に性の多様性の意識が高まっており、性についての悩みを個人で考える場面で、悩みと思っていないので困っていた。児童の実態に合わせて、カリキュラムの内容をそのまま引き継がずに、マイナーチェンジをしていくことが課題である。</p>	